

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
みんなのおうち玉山		2025 年 3 月 3 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・底もあり、利用人数的にも恵まれていると思う	・空間の整理が未だ不十分のため、より機能的に整理する必要がある
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1	・充足していると思う ・基準配置以上の職員配置を行っている	・送迎方向や送迎回数の多さから配置上の不足感を感じることがある
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	5	・〈課題や改善すべき点として〉カーテン等で「動」の部屋「静」の部屋とわけると子どもにもわかりやすいと思う 〈工夫している点として〉令和7年3月より順次カーテン等での空間整理を行っているが、今後も一層、設備等の整理や環境上の配慮を行っていく	・まだ特性の理解が不十分で何が必要なのかははっきりと分らないが、足りていないように感じることがある ・整理があいまいで、生活空間も機能的に位置づけられていない（部屋は分かれているが十分に機能していない時もある）
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	・少しずつ未だ不十分ではあるが、生活空間の質の向上のため、空間を整理したり、さまざまな家具や機具を導入するなど、改善に努めている	・冬休みの午前中が寒く、10℃以下でお昼まで過ごした日が続き、児童の手足が冷えていた ・冬場の室温管理に課題がある（足元が冷える）ため、熱循環の改善や寒さ対策の充実に努める ・手洗い場や台所の洗い場の排水口や石けんボトル、静養室の室温管理が必要だと感じる ・衛生面・安全面での老朽さ・不衛生さが各所にあり、より一層の点検と改善が必要である
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	2	・静養室の利用や空間利用に関する児童の希望に応じて、柔軟に対応している	・静養室が落ちつかない物置きになっている ・静養室の整理が未だ不十分であり、テイルーム内の空間の整理も必要である
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2	・事業所内会議や日々のミーティングの中で業務改善を進めるための目標設定等を随時行っている	・業務の振り返りが出来ていないと感じる ・目標設定と振り返りのプロセスが十分にPDCAサイクルとして機能していない時がある
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	・ご回答いただいた評価表の集計結果を共有し、業務改善につなげると同時に、適宜、必要に応じてアンケート等を実施している	・分からない ・保護者等の意向を踏まえた業務改善に不十分な点があるため、さらなる改善の必要がある
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	・毎月の事業所内会議（団会議）や、日々のミーティング、その他随時行うミーティングの機会を通じて業務改善に関する事項を集約し、一つずつ業務改善につなげている	・実践まで至らないこともあるので、自分自身もっと協力的にしていきたい ・意見等を話す機会はあるが、改善までつながらない事もある ・どちらもと言えない ・団会議は皆が発言できる機会となっている ・改善につながらないプロセス上の課題もある
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		・携わっていないので分からない ・現在は行うことができていない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・職員の資質向上のための事業所内研修を中心に法人内外の実地・Web研修等も活用し、継続的に研修の機会を設けている	・研修の機会を継続的に設けているが、今以上の定着や、さまざまな機会を通じた資質向上により一層努める必要がある
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・児童発達支援管理責任者を中心に個別・集団の支援プログラムを作成し、公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・児童発達支援管理責任者が主となって、個々のアセスメントやニーズ等の分析・把握を日常的に行っている	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	・支援者全員が個別支援計画の検討等に携わり、個々の利用児と保護者のニーズを踏まえて、必要な支援を検討し、実施できるよう努めている	・行われているが、共通理解を深めるための機会をより多角的に持つ必要がある
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	4	・計画策定時には改めて職員間への共有を行い、計画に沿った支援を行えるよう努めている	・計画を共有する機会はあるが、支援となった時に疑問に思うことがあるので自分の支援に戸惑うことがある ・ケース会議を前にもってくることで、これから周知できると思う ・自分自身、十分に個別支援計画に沿った支援を落とし込めていないと感じることがある
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	・日々の行動観察記録の充実に努めながらアセスメントを実施している	・確認が不十分で把握しきれていないことがある ・日々の行動観察を十分に記録に落とし込めていない時がある

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・計画において「本人支援」「家族支援」等の項目を個々のニーズに応じて具体的に設定し、多様なニーズの把握や支援内容の具体化に努めている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	・これまでは適宜全職員が立案し、案を策定していたが、令和7年3月からは常にチームで立案・検討できるよう、一部様式を改定した	・案があれば報告しているが、チームでは行っておらず、担当になった所を行っている ・チームでは行っていない
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・子どもが興味あるもの、生活に必要なこと、季節の行事などを取りこみ、良い刺激になっている ・計画を立ててくれているが、工夫されていると思う	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		・計画策定時には個々のニーズに応じて両活動の目標を設定し、日々の支援においても柔軟に活動を実施している	・個々に不十分な点もあり、今後、活動の充実により一層取り組みたい
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	・支援開始前のミーティング時に打合せを行っている他、プログラムの役割分担についても、適宜検討や確認を行っている	・以前よりも時間をより多く設けることができるようになったが、確認や準備が不足していると感じることもある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	・前日の振り返りと当日の打合せを当日支援前に行っている他、終業前にも適宜振り返りを行っている	・その日のうちの振り返りを、今より多く行えるように努める必要がある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	・日々の支援に関し、支援中に随時記録を残している他、翌日のミーティング時に記録漏れや情報不足などを職員間で確認しながら補うよう努めている	・ミーティングなどでその日のことを振り返り、共有・検討するよう努めているが、自分自身より一層記録を徹底し、必要な支援の検証及び改善につなげていく必要がある
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・児童発達支援管理責任者を中心にモニタリングで伺った内容をもとに職員間で支援内容を検討・確認し、必要に応じてその見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		・支援計画への落とし込みやガイドライン研修による日々の支援への落とし込みに努めている	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	3	・活動内容や活動への参加などに関して自己選択できるよう、支援上の工夫に関する検討や研修の充実に努めている ・以前より、児童自身に選択してもらえるようになった	・強制してしまっている場面がある ・まだ浸としていない ・自己決定や自己選択をしやすい言葉がけや質問の仕方をより一層学ぶ必要がある
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	・児童発達支援管理責任者を中心に、適宜個々の必要に応じてその他の職員も参画し、より細かな情報の共有に努めている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3	・地域内外の他の障害福祉サービス（障害者通所支援事業所等）との情報交換や、教育機関等との連携構築に努めている	・分からない ・未だ限定的であるため、関係機関との連携をより細やかに行う必要がある
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	3	・日々の情報共有や連絡調整を行っているほか、適宜、一部学校との情報交換会を別途行うなど、支援目標に関する連携の機会も設けている	・利用している児童のすべての学校とは行っていないため情報共有していきたい ・時々時間相違あり ・継続的に行うことが出来ている学校も一部あるものの、より定期的な開催や、情報共有の機会の拡大に努めていきたい
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	3	・未だケースは限られているものの、児童発達支援事業所との情報共有に努めている	・分からない ・出来ていない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2	・未だ該当するケースがないものの、移行時には適切な情報連携等に努めていきたい	・分からない ・分からない ・未だ卒業生なし
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4	・個別のケースに関する助言等はいただいているが、他の機会での連携は十分に図れていない	・分からない ・分からない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		・事業外のこども食堂実施時に一部交流の機会があるが、恒常的には行っていない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4		・私は参加していない ・分からない ・現在は参加できていない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・日々の送迎や迎え時にその日の様子等についてお伝えしている他、適宜、必要に応じて具体的な経過や支援内容について報告・共有している	・今以上に、今後より多様な機会を持てるようにしていきたい
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		・分からない ・未だ限定的であるため、内部研修を行いながら機会の提供等に努めていきたい

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・契約時や改定時には、丁寧な説明や質疑等への適切な応答に努めている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・計画策定に際しては児童発達支援管理責任者を中心に、適宜こども自身の意思を尊重して意向を汲み取りながら、保護者や家族の意向をもとに、こどもと保護者双方の意思の尊重に努めている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		・計画策定時には、改めて保護者への支援目標や支援内容の説明を行い、計画への同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・定期的に行っている家族あり ・家族等からの相談依頼に、適切な機会を設けて応えることができるよう適宜努めている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	5	・夕涼み会など ・保護者や家族を招待しての夕涼み会など交流の機会を一部設けているが、今後より多様な機会の提供により一層努めていく	・分からない ・未だ限定的であるため機会を広げていく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	・記録を残し本部と共有している ・苦情等の申し立てをいただいた際には、迅速かつ適切に対応できるよう努めていると同時に、再発防止のための体制整備等に法人本部と連携して対応している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	3	・HPやSNS等の活用はないが、毎月やそのつど、おたよりで連絡をしている ・おたよりの発行に加え、事業所専用のSNSとホームページの開設に現在取り組んでいる	・HPやSNSの活用も含め、欠かさず発信に努める必要がある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	1	・保護者との会話の中で他児の名前などを出さないよう注意して話している ・個人情報を含む資料は施錠の上保管している他、取り扱いに留意している	・関係者以外の事務所入室は禁止に徹底すべき
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・情報伝達のための必要な配慮に関して、支援に際する研修を行うなど、支援の向上に努めている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	・事業内行事への招待等は未だ不十分であるが、事業外で行っているこども食堂や夏祭り出店等を通じて、事業所施設の紹介や交流を図っている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	3	・各マニュアルを踏まえた定期的な研修や見直し及び訓練を実施している	・訓練を徹底した方が良いと感じる ・ご家族には周知できていないのでは ・十分に周知・徹底できていない
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2	・業務継続計画の具体化を図るよう研修や検討の機会を定期的に設けている他、避難訓練等の質の向上に努めている	・ご家族には周知できていないのでは ・十分に周知・徹底できていない
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	2		・自分自身十分に把握できていない ・ご家族には周知できていないのでは ・個々の服薬状況やアレルギー、発作等の有無について、個別支援会議時などで全職員への周知を図っている他、適宜研修及び訓練を実施しているが、より日常的な周知やこまめな再確認、研修や訓練の充実が必要である
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2		・ご家族には周知できていないのでは
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		・ご家族には周知できていないのでは ・安全管理の不十分さがある ・安全計画を策定し、年間の管理項目を定めた上で安全維持に努めているが、より一層の具体的な安全対策が必要である
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2		・ご家族には周知できていないのでは ・ご家族への十分な周知が図れていない
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	2		・報告はしているが共有されているかどうか分からない ・記入も少なく、もっとすずんで書くべき、そのような雰囲気にしていきたい ・小さなことでも業務改善につなげ、より一層の支援の改善等につなげていく必要がある
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・県や協議会等が主催する虐待防止研修の内容を事業所内研修で落とし込み、小さなことから日々の改善につなげ、支援の質の向上を図れるよう、研修の機会の確保と向上に努めている	・より細やかで実践的な研修の充実にも努める必要があると同時に、フォローアップ等も必要である
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	2	・身体拘束防止の目標のもと、保護者への説明を行い、やむを得ず身体拘束等が発生した場合には適宜保護者への報告と改善策の検討を行っている	・見直します ・より細やかな事例の検討や、身体拘束の防止に関する研修及び訓練のさらなる充実が必要である